

2017年3月31日

各 位

株式会社 三井住友銀行

当行保有貸付債権を裏付けとする合成型証券化取引の実施について

株式会社三井住友銀行（頭取：國部 毅）は、当行の信託機能を活用して、当行が保有する本邦法人向け貸付債権 1,000 億円を裏付けとした合成型証券化取引（通称：シンセティック CLO）を、S M B C 日興証券株式会社をアレンジャーとして実施しました。

本証券化取引は、国際金融規制の強化を見据えた、当行の資本・資産効率向上を企図した取組みであり、証券化取引の劣後部分を外部機関投資家に販売するものになります。マイナス金利等の影響から運用手段多様化ニーズが高まる本邦機関投資家にとって、新たな投資機会の獲得につながるものであり、複数の機関投資家に投資頂きました。なお、本証券化取引は、当行が保有する貸付債権の譲渡を行わないため、借入人と当行との融資取引に影響は生じません。

当行は、オリジネーション&ディストリビューション（O&D）の取組みを強化することで、資産拡大に依存しない持続的成長モデルへの転換を進め、資産効率の向上を目指していくとともに、三井住友フィナンシャルグループのリソースを活用し、生損保やリース会社、年金基金等、運用難に直面する本邦機関投資家への運用商品提供力を強化して参ります。

国際金融規制対応および O&D ビジネス推進の一環として、本件を第一弾として本証券化取引を今後も継続して取り組んでいくとともに、他のアセットクラスでの取組みについても検討していきます。

以 上